



一般社団法人  
日本ケーブルテレビ連盟

**NEWS RELEASE**

2018年6月5日

一般社団法人日本ケーブルテレビ連盟

## **長崎ケーブルメディアがギャラクシー賞 2年連続報道活動部門 優秀賞！**

**伊万里ケーブルテレビジョンは奨励賞に！**

株式会社長崎ケーブルメディア（長崎県長崎市、代表取締役社長：峰 利克）が制作した番組「かえる先生のいきもの交遊録」が、第55回ギャラクシー賞 報道活動部門優秀賞を受賞いたしました。

また、伊万里ケーブルテレビジョン株式会社の番組「玄海原発再稼働～周辺自治体、伊万里市の7年」は、同部門奨励賞を受賞いたしました。

ギャラクシー賞は、NPO 放送批評懇談会が日本の放送文化の質的向上を願い、優れた番組・個人・団体を顕彰するもので、1963年に始まり今年で55回目を迎えました。テレビ部門をはじめ、報道活動部門、ラジオ部門、CM部門の4部門から成り、放送業界では最高峰の賞のひとつとされています。

長崎ケーブルメディアの「かえる先生のいきもの交遊録」は、同社が番組として継続的に取り組んでいます。ケーブルテレビの地域に密着した取材力と継続的な取り組みが評価されました。

### **報道活動部門優秀賞 長崎ケーブルメディア**



～本件に関するお問合せは下記までお願いいたします～

一般社団法人 日本ケーブルテレビ連盟

担当：大平、尾崎 E-mail：[kouhou@catv.or.jp](mailto:kouhou@catv.or.jp)

## ◆第55回ギャラクシー賞 受賞作品

### ○報道活動部門優秀賞 「かえる先生のいきもの交遊録」

株式会社長崎ケーブルメディア



カエルを愛し、「かえる先生」の愛称で親しまれてきた松尾公則先生は、37年間の高校教員生活を終え、現在大学の講師として働きながら、長崎県のいきものを調査・観察しています。そんなかえる先生と長崎のいきものを見つめるシリーズ番組「かえる先生のいきもの交遊録」。月に1度、長崎に住む生き物を中心に多様な生き物にテーマを絞り、その生態について紹介しています。今回は我々が取材したかえる先生の7年間の活動を総集編としてまとめました。

これまで取り上げた大きなピックとして、絶滅の危機にある生き物、外来生物、そしてかえる先生やその仲間が調査研究を行う生き物の3種類があります。総集編ではかえる先生や先生の生き物研究仲間の活動を通してそれぞれの生き物を見つめた内容をピックアップしました。

※上記の優秀賞受賞作品は、ケーブルコンベンション 2018(7/19・20:東京国際フォーラム)において、上映会を行います。

### ○報道活動部門奨励賞 「玄海原発再稼働～周辺自治体、伊万里市の7年」

伊万里ケーブルテレビジョン株式会社



福島第一原発の事故後、国の防災計画が見直され、玄海原発から30キロ圏内に位置する伊万里市は、2013年3月、原発事故が発生し緊急事態となった場合に防護措置を行う区域、「UPZ」となった。原発が「他人事」ではなくなったのだ。

伊万里市長は「市民の安全を守るためには、立地自治体並みの安全協定が必要」と訴え、同年8月、県内自治体が九州電力締結した原子力安全協定から離脱。単独交渉へと舵を切った。

原発推進の動きを止めようと「再稼働反対」を明言する伊万里市長と、プロセスを踏んで再稼働に踏み切ろうとする国や県の対照的な動きは、次第に顕著になっていく。

周辺自治体の立場から、原発に関する動きをニュースや特集で伝え続けた7年間の報道活動。